

第3回 浜松市立中学校における制服のあり方検討委員会

次 第

日 時：令和6年6月14日(金) 14時30分～

会 場：浜松市教育委員会5階 第1会議室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 委員及び有識者自己紹介

4 協 議

検討の視点・方向性及び今後の論点について

5 その他

第4回開催予定 令和6年8月30日(金) 14時30分～

【配布資料】

資料1 検討委員会における検討の視点・方向性(案)

資料2 今後の論点(案)

浜松市立中学校における制服のあり方検討委員会 名簿及び席次

1 委 員

	所属・補職名	氏 名
委員長	学校教育部長	奥家 章夫
副委員長	学校教育部次長兼教育総務課長	山本 卓司
委員《新任》	学校教育部指導課長	吉山 幸洋
委員《新任》	学校教育部教育支援課長	南瀬 悦司
委員《新任》	浜松市立竜禅寺小学校 校長	谷野 幸代
委員《新任》	浜松市立浜北北部中学校 校長	中野 有哉

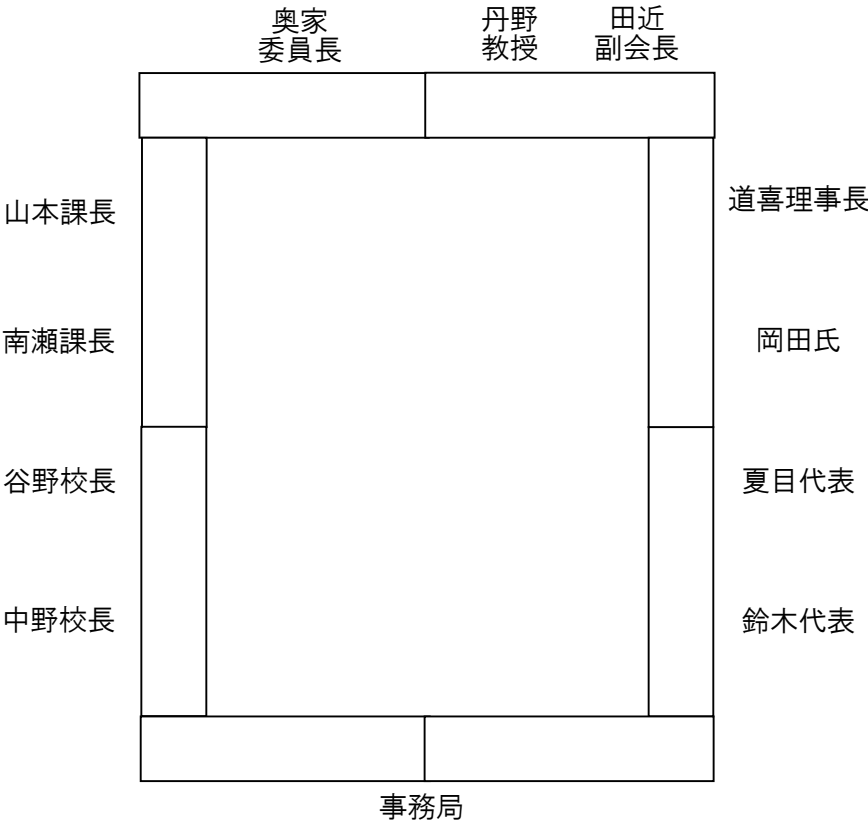
(欠席)

2 有識者

	所属・職名	氏 名
学識経験者	静岡県立大学 国際関係学部国際関係学科 教授	犬塚 協太
学識経験者	東京都立大学 人文社会学部人間社会学科 教授	丹野 清人
保護者《新任》	浜松市PTA連絡協議会 副会長	田近 章敏
関係団体	(特非)浜松男女共同参画推進協会 理事長	道喜 道恵
関係団体	(公財)浜松国際交流協会 浜松市多文化共生センター	岡田 シモネ 梨香
関係団体	ミライ制服すすめ団 代表	夏目 はるな
関係団体	浜松トランスジェンダー研究会 代表	鈴木 げん

(欠席)

《席 次》



検討委員会における検討の視点・方向性（案）

視点	➤ 制服に対して悩みや不安を抱えている子供への特別な配慮ではなく、市立中学校に通う<u>全ての子供たちの視点</u>とする。
方向性	➤ <u>「制服」ではなく、「学校に着ていく服」を検討</u>する。 ➤ 市内統一の厳格なルール・基準を検討するのではなく、<u>各学校が「学校に着ていく服」のあり方を検討していく上で必要となる項目及びその方向性について検討</u>する。 ➤ 上記と併せて、<u>市統一服の必要性についても検討</u>する。

論点 1 今の時代における「学校に着ていく服」とは	
協議の視点	関連する意見
◆「学校に着ていく服」とは	◎ 制服は、制度的に決められている服装で、必ずそれを着なければならないという概念が強い。一方で標準服は、着用が望ましいとされる服装で、着用を強制されるものではなく、似たようなものであれば着ていってもよいというものである。 ◎ 制服というみんなが同じように着なければならないもの決めるというよりは、学校で着る標準的な服装（標準服）の考えまとめていくのはどうか。 ◎ 制服を着ることができない子供たちは、校に着やその他の服装を許可されているとのことであるが、一部の子供への特別な許可ではなくて、全ての子供の性自認が尊重され自分の着る服を自分で選択できることが当たり前になる。これが全ての子供の安心安全につながる。

論点 2 なぜ「学校に着ていく服」の検討が必要なのか	
協議の視点	関連する意見
◆国の方針	◎ 今年施行された『こども基本法』や去年改訂された『生徒指導提要』に、「個性の発見」、「自己実現を支えること」、「基本的な人権が守られ」ること、「意見が言え」ること、「意見が尊重され」ることが記載されていることは重要。さらに、今月22日に閣議決定された『こども大綱』でも、「個性や多様性が尊重され、尊厳が重んぜられ」、「自己肯定感を持つ」こととされている。 ◎ 子供たちのアンケートを見ると、不満が多かったり、強要されていたりということが散見され、国の方針とずいぶんかけ離れているのではないかという印象を持った。
◆人権・多様性	◎ 性自認はその子供の単なる認識ではなく、実際に体験や経験をする生活の中身の話だということ。現状の制服のルールは、戸籍の性別に紐づいていて、全ての子供たちにそれが強制されている。この強制を耐えがたく感じている子供たちも存在する。 ◎ 制服が不登校の一因になっている現状がある。
◆機能性	◎ 中学生の意見で一番多いのは「動きにくい」ということ。次に「洗濯・手入れがしにくい」「暑さ寒さに対応していない」という、実用的な理由が多かった。保護者も「選択・手入れがしにくい」「暑さ寒さに対応していない」という回答が多く、素材やデザインのあり方を含めての検討が必要である。
◆保護者の負担軽減	◎ 保護者の意見で圧倒的に多いのが「値段が高い」である。価格についての見直しも必要ではないか。 ◎ 入学時には体操服やジャージなどを買わなくてはならない上に、制服は価格が高い。

論点3 「学校に着ていく服」を検討をする上で必要な観点とは何か

協議の視点	関連する意見
◆「制服」の目的や役割の理解	◎ 各学校の制服の取り扱いは、地域性や学校の歴史などが色濃く反映されている部分がある。それについては一定程度尊重して取り扱っていくということが基本的なスタンスだと考える。 ◎ 中学校では、義務教育を終えて社会に出ていく子供たちに対して、儀式や受験などの場面にきちんとした服装（制服）で臨むことを通して、身だしなみを整えること、TP0に応じた服装ができることの大切さを教えることが大事だと考えている。 ◎ 家庭内や家庭間で格差がひろがっている中で、全ての家庭が毎日子供の服を潤沢に用意できる状況ではない。公立中学校の制服の存在意義は、経済的な理由のウエイトが非常に大きくなっている。 ◎ 制服があるからこそ、みんなと同じ日常生活を送れている子供たちがいる。制服を無くし私服にしてしまえばということもあるかと思うが、その場合その子供たちはどうなるのか。
◆人権・多様性を尊重	◎ 多様な子供たちの意見を聞いて、全ての子供が一人残らず認められている、尊重されていると感じることが大事である。 ◎ 今まで当たり前前に制服で登校していたものが、制服を着ることが自分の選択なのだというはっきり自覚できるようにする。私服の日をつくるなど、自分の着る服を自分で考え選択するという当たり前の権利が自分のものだということを意識せざるを得ない状況を作るとは、子供たちが自身の権利を知る上でとてもよいと思う。 ◎ 外国人の子供たちは、宗教など特別な事情があるので、それを考えていただきたい。 ◎ 性の多様性だけでなく、感覚過敏や化学物質過敏などの症状のため、制服を着ることが難しいという子供たちもいる。
◆子供たちが自ら考え意見を言える風土づくり	◎ 今まで制服のことで意見を聴いてもらえる場がなかったのではないかと。相談しても仕方ない、決まりだから意見を言うてはいけないと思っているのではないかと。 ◎ 学校への調査で、新しい制服の導入検討をしない理由を「生徒からの要望・提案がない」としているが、その考え方でよいのか。そもそもそれを聞こうとしていたか。聞く機会を持っていたか。
◆保護者・地域の参画	◎ 子供たちや保護者、教職員はもちろんだが、地域住民を含めて、制服をきっかけに性の多様性やジェンダーについての啓発を並行してできるとよい。 ◎ 制服の問題をきっかけにして、アンコンシャスバイアス払拭のためのいろいろな注意喚起をし、性の多様性に対する理解度が進むという方向が一番望ましいと思う。

論点4 市統一服は必要か

協議の視点	関連する意見
◆市統一服のメリット・デメリット	◎ 統一制服は、アンケートでも保護者からかなりの希望がある。それは学校では対応できない部分であり、その扱いについて議論する必要がある。 ◎ 新品の制服は高いため、リユースのニーズがかなりあるとの話があったが、そうするとある程度の統一性を持たせた制服を着ることにも意義がある。 ◎ 統一した制服はコスト面を考えるとありだが、多様性と統一性の両立をどのように図るかが一番大事である。